

平成27年度大河原町議会報告会による 意見・要望について（回答）

（総務課）

1. 駅前交差点の歩行者専用信号部分をスクランブル交差点にできないか。

【回答】スクランブル交差点は、繁華街・駅・バスターミナル周辺等の信号機がある交差点で、歩行者の交通量が多く、交差点の形状等から歩行者の斜め横断の効果が期待できる交差点を対象としています。

スクランブル交差点にした場合、斜め横断が可能となり歩行者に対しては利便性が増し、歩行者と車両が分離されることによって事故防止上有効と思われるのですが、歩行者の待ち時間も長くなり歩行者の滞留スペースも必要になります。

以上のことから、スクランブル交差点には適さないと思われます。

（この回答は大河原警察署に意見を伺って作成しております。）

2. 福田地区にも大雨で孤立した地域があった。

【回答】福田地区内の排水路は、小規模排水対策特別事業、県営かんがい排水事業、団体営かんがい排水事業千塚排水路として、昭和63年ごろ整備されたものであり、その計画では、

- ・基準雨量・発生確率 1/10年・日雨量 151.1mm/日、
- 〃 1/2年・日雨量 85.4mm/日

となっております。排水方式は、自然排水です。

その後、平成7年頃、村田町の沼辺地区の排水路改良と併せ、排水機場が整備されました。計画基準雨量は、先の排水路事業の数値と同じで、機械排水の排水量等は、

- ・排水量 公称 1.56 m³/S 最大 2.55 m³/S 1台
- となっております。

今回の大雨時には、ポンプが2日間フル運転で排水しておりました。排水能力を上げるには、ポンプ増設・排水路断面拡幅などが考えられますが、放流先の1級河川荒川との関係もありますし、調整池という方法も考えられます。いずれにしても、大掛かりな調査・設計・施行となるのではと考えられます。

3. 空き家の有効活用をはかるべきである。

【回答】空家等対策の推進に関する特別措置法の制定に伴い、平成27年10月に大河原町空き家等の適正管理に関する条例において空き家等対策計画が織り込まれ、空き家等及び除去した空き家等に係る跡地の活用の促進事項の中で検討してまいります。

4. 投票所が遠くなってしまうところもある。選挙区割の再考はできないか。

【回答】投票所設置は、投票所内の広さや駐車スペースの確保、投票事務の正確性や選挙人の利便性、地域性を考えて設置する必要があると考えています。

平成27年度に行った改編では、そのことを十分に検証し、且つ関係行政区長には事前に複数回説明を行い、同意を得たうえで実施したものです。

5. 行政区の戸数の伸び率を調査すべき。

【回答】毎月末時点の行政区別世帯数の数値が出されており（町のホームページに開示）把握できております。

6. 放射線量の高いところが出てきている。金小通学路近くを重点的に放射線測定してほしい。

【回答】金ヶ瀬小学校通学路近くを重点的に測定とのことですが、金ヶ瀬地区におきましては、毎月金ヶ瀬小学校・金ヶ瀬中学校・金ヶ瀬カトリック保育園・南平公園（免許センター）を隔月で広表1号公園・広表2号公園・広表3号公園・金ヶ瀬児童遊園（金ヶ瀬4区）・緑町公園・台部児童遊園で測定し結果を毎月広報おおがわらに掲載しておりますのでご参照願います。

なお、測定器の貸し出しを今も総務課で行っておりますので、ご活用ください。

7. 役場の放射線測定器に誤差はあるのか。

【回答】測定器の誤差は測定値の±10%になっております。

(企画財政課)

8. デマンドタクシーの利用状況はどうか。事務所は役場の一角で良いのではないか。あり方の見直し、運営方法などを再検討するべきではないか。

【回答】平成26年度の1日あたりの乗車人数は73人、平成27年度現在までの1日あたりの乗車人数は70人と減っております。予約後のキャンセルが多いことが、主に乗車人数の原因となっております。また、事務所の場所、運営方法など見直しが図れる部分については、デマンドタクシー運営小委員会での協議、公共交通協議会での協議を通し検討を図ってまいります。

9. 将来人口減少が予測されているがそれに対する手段は考えているのか。近隣町村と協力して少子高齢化対策はできないのか。

【回答】将来に対し人口減少をいかに緩和していくかを、主に対策を進める「大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成27年12月議会において議決をいただきました。結婚・出産・子育ての支援による出生率上昇、移住・定住の促進、健康寿命の延伸による寿命延伸などを進めてまいります。近隣市町と連携ができるものは施策形成を図り進めてまいります。

10. 集会所の整備予定はないのか。

【回答】現在のところ整備予定はございません。

11. 集会所等の冷暖房設備は速やかに設置してほしい。

【回答】平成27年度より大河原町集会所空調設備設置事業補助金により、年間3施設への設置を進めております。

また、平成28年度は補助施設数を6施設に拡大し、設置促進を図ってまいります。

12. 橋本交流センター建設の際に、駐車場が後から追加になった。予め現場を確認し、対応してほしい。今後、西原集会所等でこのようなことがないようにしてほしい。

【回答】橋本交流センター駐車場の追加については、当初、地区との了解のうえで花壇を設置いたしております。その後、地区より駐車場に変更してほしいとの強い要望が出されたことによ

り追加したものであります。今後とも、地区と協議を行いながら整備してまいります。

13. 二本松集会所脇の広場整備について、簡易な遊具も設置してほしい。

【回答】今後、検討させていただきます。

14. 住みたいまち、住みやすい町を目指すと町長は言っているが、具体的にどのようなものなのか。

【回答】子どもから高齢者まで「住んで良かった」と暮らしの中で実感が湧くまちを目指すことであります。健康、生きがい、働きがい、ふれあい、安心安全、環境（都市・商業・交通・住む・医療・文化等）などが向上し、住み良さを住民が誇りと感じることで、住民がこれからも住みたい、町外からも住んでみたいと評価されることを目指しています。

15. 公共施設の更新はどうなっているのか。

【回答】平成 27 年度に策定しました公共施設等総合管理計画に基づき、更新計画をたてて行ってまいります。

(地域整備課)

16. 末広橋の管轄は宮城県だが、町として安全対策等はできないのか。

【回答】ご指摘のとおり末広橋は宮城県の管理となりますことから、町として安全対策はできないものと考えますので、引き続き県に安全対策を要望してまいります。

17. 中核病院西線の進捗状況はどうなっているのか。盛土されているので見通しが悪い。早く対処してほしい。

【回答】中核病院西線整備事業の進捗状況については、道路整備に必要なすべての用地買収を完了し、平成 27 年度末における全体事業費に対する進捗率は 48%となります。

また、一次盛土については87%が完了し、現在は本年度の一次盛土の一部撤去を実施して、見通しの確保に努めているところです。

なお、水路に並行している既設道路については、平成28年度には完全撤去となる予定です。

18. 公園のトイレの洋式化をしてほしい。

【回答】公園トイレは、様々な方から利用されることから、洋式化の要望がある一方、衛生面から和式を残してほしいという意見も頂いております。

また、以前設置したトイレは個室が狭いため洋式便座の取り付けが難しく、洋式化をする場合には新築または大規模改修となってしまうことから、現在のところ既設トイレの洋式化は実施していないものです。

19. 大河原公園のアクアリウム等、改修が必要だと思われるが、どうなっているのか。

【回答】大河原公園のアクアリウムについては、漏水及びろ過の不具合等の改善が出来ず、改修等の見直し及び大規模な工事が必要であると考えており、今後の大きな課題となっております。現状におきましては、危険がないように定期的な巡回と排水を行ってまいります。

(上下水道課)

20. 稗田前地区の雨水対策の早期完成を。町単独でもできないのか。

【回答】鷺沼排水区雨水整備事業につきましては、大河原町・柴田町共同事業として国の補助事業の採択を受け、平成25年度より下流側の柴田町山岸地区（菓匠三全）より大型排水路整備に着手し、高砂公園付近まで工事を進めております。更なる工事の効率化を図りながら、浸水被害の早期解消に努めているところであります。

上流域の稗田前地区の町単独事業での整備につきましては、下流域が未整備であると「水がはけない」排水効率の向上が図られませので、下流より整備を進めなければならない事をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

(農政課)

21. 生活センターの解体を地区が負担するのは難しい。町で出来ないのか。

【回答】設置時及び維持管理についても町が助成という形を取ってきており、「町が解体」ということはできないと考えております。町内には同様施設もあることから、今後の町の計画や地域での状況も踏まえながら考えてまいります。

22. 新田町生活センターの集会所への移行はどうなっているのか。

【回答】生活センターは、昭和40年代から50年代にかけ、事業主体は農業者団体に補助を受け設置されました。その後の維持管理も事業主体である農業者団体（今では区）が行ってまいりました。これまでも、維持費や修繕費には町が補助をする形で支援してまいりました。一方、集会所は、町で設置し管理人を委嘱して町の施設として管理されています。

本町における公共施設管理の現状は、更新・統廃合・長寿命化など財政的に大変厳しい所があります。町内には同様施設もあることから、今後の町の計画や地域での状況も踏まえながら考えてまいります。

23. 6次産業化、亶理町のいちごの取組みを参考にするなどして広域的な取組みをしてはどうか。

【回答】取組みには、資金・生産技術・生産量・販路・他地域との差別化など、解決すべき課題は数多くあり、生産者の高齢化など難しい状況ではあります。引き続き各方面の方々と検討を重ねてまいります。

24. イノシシ対策強化をお願いします。

【回答】現在、町内には、箱おり10基・くくり罠20数か所に仕掛けております。毎日巡回確認してもらっています。猟友会会員も高齢ともなっています。山際の草刈り徹底や電気柵の設置など地域ぐるみで取組みを進めてまいります。

(商工観光課)

25. 大河原町は桜しかないのか。産業振興のためにも、町の特産となり得るものを掘り下げていくべきである。

【回答】町では「桜」のほか、町木である「梅」を町の特産と位置づけ産業振興へ向けた取り組みを行っております。「梅」を活用した特産品としましては、味噌醤油醸造業者や菓子店などで商品の開発・販売等が行われております。また、地元高校生が企画した、梅を使用したラムネやゼリー、飴などが、企業等の協力を受け商品化もされております。

町としましては、その商品の特産品として推奨し、東京・池袋にあります宮城県のアンテナショップ「宮城ふるさとプラザ」を始め、各種物産展への出展を行うなど、商品PR等に努めてまいりました。また、毎年6月下旬には、観光物産協会主催による「おおがわら梅まつり」が開催され、「大河原の梅」を町内外へ向けて発信しております。引き続き生産者や各事業所、関係機関等と連携し、産業振興を目指した取り組みを行ってまいりたいと考えております。

26. 商店街の活性化を町として何か考えられないのか。

【回答】地域の生活を支える商業機能として商店街は、重要な役割を担っておりますが、近年、大型店やロードサイドショップの増加、通信販売等の流行など、厳しい環境にあります。このような中、町では商店街主催のイベントや販売促進事業等に対する補助事業のほか、プレミアム商品券事業などの支援を実施してきたところであります。また商店街（組合等）におきましては、夜市やイルミネーションなどの展開も行っておりますが、近年の傾向として、商店等を廃業した後、空き店舗を撤去し更地とする事例が多くみられ、空洞化等が進展し街なかの商店街を取り巻く環境はより厳しい状況が続くことが予想されます。一方ロードサイド（4号バイパス）においては、閉店はみられますが比較的早期に新規参入等があるようでございます。

町としましては、今後とも商工会等関係団体と連携しながら、商店街のにぎわい創出に努めてまいりたいと考えておりますが、この活性化については商店主や土地所有者の意向（意識）が第一であることをご了承願います。

27. 企業誘致の状況はどうなっているのか。早急に進めるべきである。

【回答】現在町では、金ヶ瀬川根工業団地内の町有地及び周辺の私有地への企業誘致を図っております。おかげさまを持ちまして、この工場用地に以下の製造業3社の進出又は現在の工場の増築等を見込んでおります。

① 町有地、私有地 約9,000㎡ 敷地向かいの(株)コイワイ様 新規工場用地として28年3

月売買契約 30 年 4 月操業開始予定

- ② 町有地 約 11,600 m² 角田市のとくら運送様が土地を取得し貸工場を建設。これを液晶パネル製造機械組立工場（企業様）に賃貸する。28 年 3 月売買契約 28 年 10 月操業開始予定
- ③ 町有地、私有地 約 30,000 m² 町が私有地を買収し、工場用地として造成、これをアイリスオーヤマ(株)大河原工場の拡張用地として売却することで、覚書を締結している。現在、同社と事業着手に向けて協議中

(健康福祉課)

28. 今の仙南夜間初期急患センターは利用しづらい(16 歳未満対象外など)

【回答】仙南夜間初期急患センターの診療科目につきましては、仙南地域の内科系開業医の先生方にお願ひし、おおむね 16 歳以上の内科の患者さんを診療しております。

小児科の診療につきましては、専門性や医師の確保の面からも難しく、開設当初より中核病院で診療することを前提に内科単独で開院してものです。

29. 特養ホームを町として運営、設置はできないのか。

【回答】特別養護老人ホームを町が設置することにつきましては、財政的なこともあり難しいところで、又介護職員、看護職員等を町で確保することも難しいことから、現在ほとんどの市町村では、整備事業者の公募等を行って、経験のある社会福祉法人が設置、運営している形態となっております。

(子ども家庭課)

30. 第 3 子以降については国が面倒を見るようにしないと人口増加にはつながらないのではないか。

【回答】第 3 子以降の子育て支援については、保育所の保護者負担金の減額や、幼稚園就園奨励費補助金、児童手当などがありますが、なお、これからの人口減少を食い止める対策としては、個々の自治体の努力だけではなく、国主導によるさまざまな政策が必要であると思います。

(生涯学習課)

31. 町民学園のポイント事業について、行政区ごとでポイントが発行されるのは不平等でないか。

【回答】行政区のポイント発行につきましては、平成27年4月の区長会におきまして、区長が認めた区の活動（事業）について、町民学園の対象事業としてポイントを付与する旨、説明を行っているものです。

行政区からは区の事業の申請という形で提出していただいております。当初8行政区から申請があったものです。

その後、追加で申請された地区が、10行政区となっております。合計18行政区からの事業にポイントを付与している状況となっております。

今後も、引き続き区長会等で町民学園事業についての説明を行い、ご理解をいただけるよう進めていく予定であります。

(町民生活課)

32. 角田クリーンセンター建設にともなって大河原町への恩恵はないのか。

【回答】地元対策につきましては、これまでも施設を設置する地元の市町における要望事項について、仙南広域行政事務組合の理事会（首長会議）及び議会で決定しておりますことから、本町に対しては、特段ございません。

33. ごみ集積所（二本松団地内）が狭いところがある。解消できないのか。

【回答】ごみ集積所の設置や管理につきましては、各行政区において行っていただいております。

南原前区におきましては、道路が狭く、ごみ集積所の設置場所については大変苦慮されている状況であります。広い場所へ移動すれば現在より不便になる場合もありますので、地区の皆様でご相談されたうえで変更することは可能であります。

34. 側溝土砂を早く上げられるようにしてほしい。

【回答】側溝清掃につきましては、平成26年12月に2回に分けて実施し大部緩和されたと認識しております。

今後の側溝清掃につきましては、処分受入業者の関係や処分委託費の面から単年度での実施

は難しいと判断しております。

35. 医療費 18 歳助成で予算的に問題はないのか。

【回答】子ども医療費助成の対象者を 18 歳までに拡大いたしますと、予算は増額になりますが、少子化対策の一環であり、子育て家庭における経済的負担を軽減し、子どもたちの健全育成を図るためであります。平成 27 年度におきましては、国の「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」が交付されます。

なお、県、国に対しましては、補助金の拡大、国民健康保険の国庫負担金の減額措置の撤廃等について要望している所であります。